

## 第8回 獣医師生涯研修事業運営委員会の会議概要 (学術部会個別委員会)

日 時 平成24年1月11日(水) 13:30~16:30

場 所 日本獣医師会会議室

### 出席者

- |        |  |                      |
|--------|--|----------------------|
| 【委員長】  | 佐々木伸雄  | 東京大学大学院農学生命科学研究科教授   |
| 【副委員長】 | 本田 善久  | みゆう動物病院長(大阪市)        |
| 【委員】   | 岩上 一紘  | 岩上動物病院長(栃木県)         |
|        | 大庭 芳和  | 静岡県獣医師会専務理事          |
|        | 濱野 雅子  | 岡山県環境保健研究センター        |
|        | 丸山 総一  | 日本大学生物資源科学部教授        |
|        | 南 三郎   | 鳥取大学農学部教授            |
|        | 山田 英一  | 山田動物クリニック院長(新潟県)     |
| (欠席)   |  |                      |
|        | 加茂前秀夫  | 東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授 |
|        | 北川 均   | 岐阜大学応用生物科学部教授        |
|        | 諸角 元二  | とがさき動物病院長(埼玉県)       |
|        | 山本 茂貴  | 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長 |
| 【本会】   | 近藤 信雄(副会長) 矢ヶ崎忠夫(専務理事) 酒井 健夫(理事(学術・教育・研究担当)) |                      |

### 議 事

- 1 職域別部会の運営等(説明)
- 2 委員会の検討テーマ等(説明)
- 3 事業運営状況等(説明)
- 4 委員会におけるこれまでの検討経過(説明)
- 5 「生涯研修事業のページ」の企画担当(協議)

### 会議概要

開会にあたり近藤副会長から、「獣医師にとって、社会貢献を行うことは非常に重要であると感じているので、獣医師が行う生涯研修のあるべき姿と、それによってもたらされる社会貢献を視野に入れてご意見をいただければと思う。ひとつよろしく願いたい。」旨の挨拶があった。

## 1 職域別部会の運営等

続いて事務局から委員の紹介が行われた後、酒井理事から、今期における本委員会の正副委員長は前期に引き続き、佐々木委員長と本田副委員長にお願いしたい旨が提案され、全員一致で了承された。

さらに、資料に基づき本委員会の組織上の位置付け、委員構成、職域別部会運営規程等の説明が事務局から行われた。

## 2 委員会の検討テーマ等

次に、本委員会の検討テーマである「日本獣医師会獣医師生涯研修事業の企画・運営など」について事務局から説明が行われた。

## 3 事業運営状況等

続いて事務局から、獣医師生涯研修事業の事業内容やこれまでの獣医師生涯研修事業における認定プログラム数、申告者数、研修実績証明書・修了証・認定証の交付者数等について、資料をもとに説明が行われた。

## 4 委員会におけるこれまでの検討経過

次に事務局から、前記の委員会において内容を了承された「獣医師生涯研修事業の課題と対応の方向（中間報告）」の内容説明が行われ、これまでの獣医師生涯研修事業運営委員会の検討経過と今後の課題等についてあらためて確認が行われた後、それぞれの課題について以下のとおり意見交換が行われた。

### 【産業動物分野と公衆衛生分野の獣医師の参加】

ア 日本獣医師会が行う獣医師生涯研修事業としては公衆衛生分野にも対応しなければならないが、公衆衛生分野に携わる獣医師の本事業への参加者数が伸びていないという現状がある。

イ 公衆衛生分野の獣医師が所属する全国公衆衛生獣医師協議会によって実施されているプログラムを、本事業で認定してはどうか。

ウ 本事業で認定されることが職場の勤務評価に反映されれば、公衆衛生分野の獣医師はこれまでより多く参加することが予想されるが、現状では難しいと思われる。

エ 産業動物分野の獣医師のうち公務員や農業共済勤務の獣医師については、団体独自の研修を受講していることが多く、このことが本事業へ参加しない要因になっていると思われるので、国や地方公共団体、農業共済が実施する研修プログラムも本事業で認定する方向で検討してはどうか。

### 【研修カリキュラム】

ア 研修カリキュラムのうち、どの分野から何ポイントを取得しなければならない等のように、研修を受講する分野を限定したり、受講の指針をある程度決めても良いので

はないか。その場合、研修カリキュラムは現在よりも大まかにした方が良いのではないか。

- イ 獣医療の内容が専門化、分化している現在、カリキュラム内容を大枠で区分して1ページに収まる程度のカリキュラム数に抑えることは、困難なことが予想される。
- ウ 在宅研修用教材である認定学術誌のカリキュラム番号も確認しなければならないのではないか。
- エ これまでも数度にわたり研修カリキュラムの内容を改訂してきたが、今後、改訂するのであれば、小動物臨床分野に比重を置いて良いのではないか。

#### 【システムの構築】

- ア インターネットを利用したe - ラーニングシステムによる研修であれば、誰がいつどの内容を受講したか、履歴により的確に把握することができる。しかし、これを行うシステムを構築するには多くの費用が必要となる。
- イ ポイントの申告方法が事業開始当初よりも簡便化し、ポイントシールの配布数が増加しているにも関わらず申告者数が減少していることを重視しなければならない。インターネットを利用した申告システムを構築して申告方法をできる限り簡略化し、個人の受講状況を確認できるようになれば申告者は増えるのではないか。
- ウ インターネットを利用して各個人の受講状況がわかるシステムを作成した場合にはIDとパスワードの設定が必要となるが、IDやパスワードを忘れた場合の対応が必要になり、これにシステムで対応できるようにしておかないと事務が煩雑となる恐れがある。
- エ 現在は日本獣医師会の会員カードの利用者数が増えていない。今後、インターネットを利用した申告システムに会員カードが活用できれば利用者は増加し、カードの作成費は受益者負担で対応できるのではないか。
- オ 新たに獣医師生涯研修事業の申告システムを作成するのであれば、現在、日本獣医師会で使用している会員検索システムとリンクすることができるかどうかを確認してはどうか。

#### 【研修用教材】

- ア 在宅研修用教材は、製作から5年も経過すると内容が古くなってしまう。小動物臨床分野におけるDVD等の教材は、民間業者が新しい内容の製品を次々と制作しており、一般に多く普及しているため、本事業で新たに作成したり認定したりする必要はないのではないか。もしも今後、DVDの作成や学術誌の認定等により教材を増やすのであれば、産業動物分野や公衆衛生分野を中心に行うべきではないか。
- イ 学会年次大会や地区学会での講演を記録し、これをDVDの教材やe - ラーニングシステム等での研修に使用する場合、著作権の問題には十分に気を付けなければならない。

## 【その他】

- ア 地方獣医師会が行っている講習会の中には、まだ本事業で認定していないものがあるので、今後、より地方獣医師会と積極的にリンクして、できる限り多くの講習会を認定するよう、地方獣医師会の事業を活用してはどうか。
- イ 本事業で認定されたプログラムの出席者数をより増やすためにも、ホームページ等を利用することにより、一層、積極的に広報活動を行った方が良い。
- ウ 他の団体を加えた委員会を設置して資格を付与する仕組みを考え、これに本事業による認定をリンクさせてはどうか。さらに、この取得した資格を広告することが可能となるよう農林水産省に申し入れることが望まれるが、長期間にわたる対応が必要となると思われるため、本件については次期委員会へ申送ることとする。
- エ 獣医師は国から認められて免許を付与されているので、さらなる認定をするのであれば、厳しい条件を付与した「認定医（仮称）」を目指すこととしてはどうか。
- オ 本事業で各獣医師が性善説に立つことを前提とするのは良いが、そのことが知識・技術に差のある「認定医（仮称）」制度となり、広告制限を緩和する際に障害となる恐れがあるのではないか。そのためにも、申告システムの導入やカリキュラムの整備などにより、研修受講状況を的確に把握する準備を進める必要がある。

## 5 「生涯研修事業のページ」の企画担当

日本獣医師会雑誌に掲載している「生涯研修のページQ & A」の今後の担当委員を決定した。

### まとめ

最後に、佐々木委員長により、第8回委員会は以下のとおり取りまとめられた。

- ア 今期の獣医師生涯研修事業運営委員会は、佐々木委員長、本田副委員長、岩上委員、北川委員によるワーキンググループを組織して、平成 25 年度から稼働することを目標とした、新たな申告システムの製作について検討を行うこと。
- イ 中間報告の内容については、正副委員長と事務局の間で文言等を調整のうえ、さらにワーキンググループで内容の検討を行い、この内容を各委員に送付して了承を得た上で最終答申とすること。